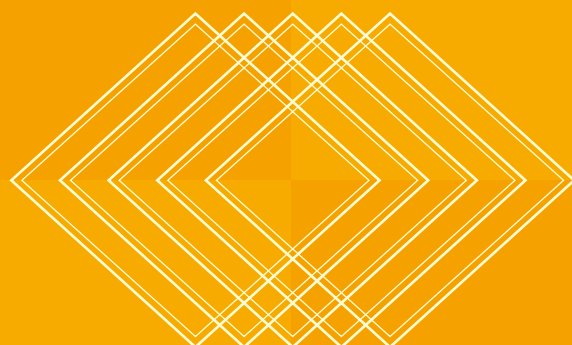


第9回 東北大学基礎ゼミFD ・ワークショップ — 報告書 —



平成28年3月



東北大学

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構

第9回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ報告書発行にあたって

東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長
総長特別補佐（教養教育担当） 安藤 晃

平成27年11月10日に開催しました第9回基礎ゼミFD・ワークショップの報告書を刊行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

大学で何を学ぶかは学生にとっても教員にとっても大きな課題ですが、高校までの学び方と変わり、教科書を中心とする受動的学習から、個々の思考に重点を置く能動的学習（Active Learning）へと「学びの転換」があることは間違いありません。正しい解答がある問題から、かならずしも正解がない問いかけへ、またその課題自体を考える姿勢へと大学時代にはその学ぶ姿勢も大きく変わります。大学での学習では、先生に教えてもらうという受け身の姿勢では十分ではなく、自ら理解し自分の考えを提案していく能動的な姿勢が重要です。大学という新しい門をたたいて入学した1年生に対して、教員からの一方向的な専門的知識の伝授ではなく、自ら考える力、仲間と議論しながら課題に取り組み解決に導いていく能動的な学習、すなわち「思考を活性化する」学習を経験することは、これからの大学での学習や社会に出てからの学びの姿勢を身につけるのに大変役立ちます。

「基礎ゼミ」は、本学に入学した学部1年生が参加する少人数ゼミ形式の授業ですが、実施にあたっては本学のすべての学部、研究科、研究所の先生方から担当者が選拔され、文系から理系まで150を超える数多くのテーマを設定し、実施されています。入学した学部の枠を超え、興味をもったテーマに対して参加した学生同士が活発に議論し、実習に取り組んだりしながら創意工夫を行う点に特徴があります。本科目の中では、問題を自ら発掘し、解決への道筋を思考し、それを発表していく能力を養っていきます。総合大学としての強みを活かし、専門家としてだけではなく複合的な視点を持つ大事さも重視しています。また友人作りの場としても期待されています。

毎年継続して「基礎ゼミ」を担当している先生もいれば、年度ごとに新しく担当される先生方もいます。本科目の趣旨を共有し、実効あるゼミとするために有用なノウハウなど優れた実践事例の報告を毎年継続的に行っています。さらに基礎ゼミ成果発表会を開催し、優れた発表、優れた取り組みに対して学務審議会委員長から表彰する制度も出来ました。本報告書を参考に、教員と学生がともに創る授業にむけ、更に新しい進展がなされることを願っています。

現在、「基礎ゼミ」につづく「展開ゼミ」の企画を進めています。これらの科目に多くの学生が選択履修し、そこでの経験や学ぶ姿勢を、専門実習や研究室ゼミへと生かしていくことで、社会における様々な課題に対し取り組み、自らの意見をまとめ、主張し、議論しながら解決策を見出していく能力を身につけることを期待しています。

第9回 東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ

日 時 : 平成27年11月10日(火) 13:00~17:00

場 所 : (全体会) マルチメディア教育研究棟2階 M206
(ワークショップ) 講義棟C棟4階 C403, C407, C408

内 容 :

1. 開会挨拶 学務審議会委員長 花輪 公雄 … 13:00

2. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミの意義と実施に向けて」 …… 13:05

学務審議会基礎ゼミ委員会委員 関内 隆

3. 講演

「配慮を要する学生への理解と対応～障害をもつ学生の支援も含めて～」 …… 13:30

学生相談・特別支援センター教授 吉武 清寛

4. 基礎ゼミ実践事例の報告 …… 14:00

① 「科学技術プレゼンテーション実習」～実験・実習型基礎ゼミ実践事例

金属材料研究所准教授 内田 健一

② 「医療をとりまく心理と社会ーてんかんー」

～フィールドワーク型基礎ゼミ実践事例

医学部・医学系研究科助教 藤川 真由

③ 「橋の材料と構造を観る」～演習型基礎ゼミ実践事例

工学部・工学研究科助教 松崎 裕

5. ワークショップ—学生の主体性を育む授業方法— …… 15:10

A～Cグループの3グループに分かれ、事例報告者を交えてグループ作業を行う

Aグループ: 内田 健一 准教授

Bグループ: 藤川 真由 助教

Cグループ: 松崎 裕 助教

6. 発表・質疑(各グループの成果発表) …… 16:35

7. 閉会 …… 17:00

全体会司会: 高度教養教育・学生支援機構助教 高橋 禎雄

主催: 学務審議会 高度教養教育・学生支援機構



開 会 挨 拶
学務審議会委員長 花輪 公雄



オリエンテーション
学務審議会基礎ゼミ委員会委員 関内 隆



講 演
学生相談・特別支援センター教授 吉武 清實



基礎ゼミ実践事例の紹介
金属材料研究所准教授 内田 健一



基礎ゼミ実践事例の紹介
医学部・医学系研究科助教 藤川 真由



基礎ゼミ実践事例の紹介
工学部・工学研究科助教 松崎 裕



研修風景



ワークショップ風景

1. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミの意義と実施に向けて」

学務審議会基礎ゼミ委員会委員 関内 隆



全学教育における基礎ゼミの 意義と実施に向けて

学務審議会基礎ゼミ委員会委員
関内 隆

報告の構成

- (1) 本日の「基礎ゼミFD・ワークショップ」の目標
- (2) 全学教育における「基礎ゼミ」の位置
学生・教員にとっての「基礎ゼミ」実施の意義
- (3) 基礎ゼミ実施上の留意事項
シラバスの作成と提出について
- (4) ワークショッパー主体性を育む授業方法—
のグループ作業手順

(1) 基礎ゼミFD・ワークショップの目標

- ・オリエンテーション:
基礎ゼミの趣旨と実施上の留意点を確認
- ・講演「配慮を要する学生への理解と対応
～障害をもつ学生の支援も含めて～」
基礎ゼミにおける学生対応の諸問題を認識
- ・基礎ゼミ実践事例の紹介:
本年度の基礎ゼミ担当教員から成果報告
授業実践の方法・工夫などを学習
- ・ワークショップ:
基礎ゼミ担当教員の実践例をもとに、「学生の主体
性を育む授業方法」と授業実践上の工夫を共有化

(2-1) 東北大学全学教育の構成

基幹科目

人間論・社会論・自然論: 専門分野の如何を問わず、豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究心を養う

展開科目

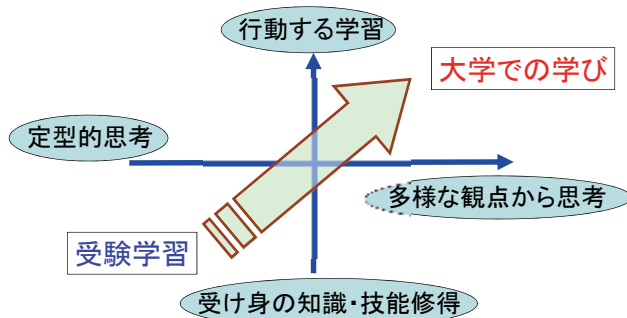
人文、社会、自然の諸科学に関する基礎的知見、学際的視点を身に付け、専門教育へと展開する知的基盤を養う

共通科目

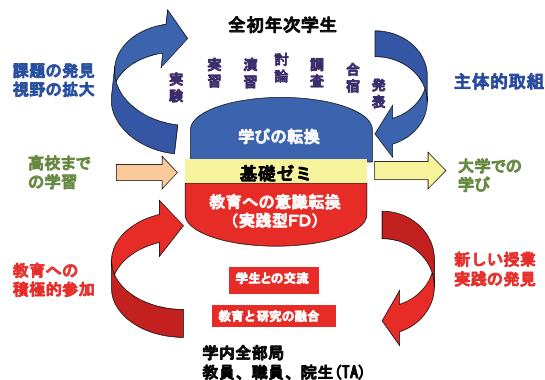
「基礎ゼミ」「外国語科目」「情報科目」「保健体育科目」等
本学学生ならびに現代人としての基本的素養と技能を学び、能力や技能を自己開発するための起点を形成する

(2-2) 東北大学のめざす全学教育

学部専門教育では果たすことのできない根幹的基盤教育
→ 全学の責任と参加による全学教育



(2-3) 基礎ゼミの意義



(2-4) 基礎ゼミ成果発表会〔毎年9月末〕

- ・基礎ゼミで学んだことを公開発表
- ・学生が主体的に運営



口頭発表

ポスター発表

(2-5) 担当教員アンケート

- ・文系、理系の混合クラスは有意義
- ・学生の主体的な取組姿勢は予想以上
- ・TAの院生が積極的にに関わり、教育効果は大
- ・新入生の積極姿勢から、教育の面白さを再認識
- ・授業の工夫次第で成果が上がることを実感
- ・学生の主体的な学習を支援することの意義を確認

基礎ゼミの担当経験 ⇒ 実践型のFD

(2-6) 基礎ゼミ実施の心得5か条(私見)

- ・教員は「教える」ことを最小限に抑え、学生が主体的に「学ぶ」という体験をするための工夫をする
- ・学生の主体性、積極的な姿勢を引き出すために学生同士のつながりやTAを活用する(教員にとって我慢が成功の秘訣)
- ・大学での勉学の心構えや学問の基本的手法などを学生が身に付けることを授業の趣旨・目標とする
- ・コミュニケーション能力の向上と所属学部を超えた友人の輪が形成されることを目指す
- ・教員は基礎ゼミで得た教育実践の手ごたえをもとに、他の授業科目での工夫・改善に応用する

ISTU(東北大学インターネットスクール)

URL : <https://xapp.istu.jp/>

- ・東北大学のeラーニングシステム
 - － 講義資料の閲覧、ダウンロード、動画ストリーミング配信
 - － レポートの受け取り、採点・返却
 - － 担当教員からのお知らせ通知(掲示板機能)
 - － TAIによる更新アシスタント
- ・利用講習会のご案内
 - － 教育情報基盤センターによる講習会(3月/9月)

部局単位/個別での講習会も対応可

お問合せ: 教育情報基盤センター(内線7622)

email: tech-staff@cite.tohoku.ac.jp

(3) 基礎ゼミ実施上の留意点など

- ・「基礎ゼミ」実施に当たっての留意事項
 - ①「基礎ゼミ」受講者の決定方法
 - ②「基礎ゼミ」開講までの流れ
 - ③集中講義で実施する際の留意点
 - ④柔軟な対応について
 - ⑤「基礎ゼミ」実施に係わる経費について
 - ⑥TA、SLAの活用による実施について
 - ⑦基礎ゼミ成果発表会へのご協力お願い
- ・シラバスの原稿作成と提出について

(4) ワークショップ

—学生の主体性を育む授業方法—

Aグループ: 内田 健一先生
世話役: 藤本敏彦

Bグループ: 藤川 真由先生
世話役: 関内 隆、高橋禎雄

Cグループ: 松崎 裕先生
世話役: 葛生政則

- ・各グループでは講師に対する質疑応答の後、討議によるグループ作業を行う
- ・課題: 基礎ゼミにおいて学生の主体性を育む授業方法として、「良い手法3例」と「改善を要する手法3例」をまとめ、成果を全体会で発表

「基礎ゼミ」実施に当たっての留意事項

1. 受講者の決定について

新入生は、大学から入学前に事前に送付される「基礎ゼミの手引（シラバス）」を参考にして、受講を希望する課題を第5希望まで選び「基礎ゼミ受講希望届」を入学後のオリエンテーション時に提出します。この「基礎ゼミ受講希望届」を基に、電算処理によってクラス分けを行います。

また、2年生以上の学生が受講を希望する場合も同様のクラス分けを行います。

クラス分けの結果については、学生には掲示及び全学教育ホームページにより発表します。各担当の先生方は学務情報システムより受講者名簿をダウンロード願います。

注： 2年生以上の学生が新入生と一緒に受講する場合があることを予め了承願います。
(支障がある場合は、事前にお知らせ願います。)

注： 後述4-②の関係で、クラス分け後に履修者の追加をお願いすることがあります。
その際は、可能な限り受け入れてくださるようお願いいたします。

2. 初回の授業について

一般の授業の開始日は平成28年4月11日（月）ですが、「基礎ゼミ」の授業のみクラス分け作業のため、4月18日（月）から始まります。

3. 開講までの流れ（案）

平成27年12月中旬	<u>基礎ゼミの手引（シラバス）原稿作成期限</u>
平成28年4月6日(水)	入学式
4月7日(木)～8日(金)	新入生オリエンテーション
4月8日(金) 夜	事前に記入した基礎ゼミ受講希望届用紙の回収
	2年次（再履修等）受講希望届提出締切り
4月9日(土)～10日(日)	受講希望届（マークシート）読取り作業（TEC）
4月11日(月)午後～13日(水)午前	クラス分け抽選作業（データ処理）
4月13日(水)午後	全履修者の名簿作成作業
4月14日(木)	学生にクラス分け発表（掲示）
4月15日(金)	<u>受講者名簿ダウンロード（学務情報システム）</u>
4月18日(月)	<u>基礎ゼミ初回授業（月曜）</u>
4月21日(木)	<u>基礎ゼミ初回授業（木曜）</u>

4. 集中講義を行う場合について

① オリエンテーションの実施

「基礎ゼミ」を集中講義で実施される場合、集中講義の日程及び場所等を周知するため、オリエンテーションを実施していただく必要があります。

オリエンテーションの実施日時については、「基礎ゼミ」専用時間帯の

4月18日（月）3，4，5講時

4月21日（木）5講時

の中のいずれかの時間帯に必ず実施くださるようお願いいたします。

ただし、4月18日（月）5講時及び4月21日（木）5講時は、講義棟C棟が学生の課外活動で使用されるため、十分な教室数を確保できない状況にあります。

オリエンテーションの実施については、できる限り4月18日（月）3講時または4講時のいずれかで実施くださるようご協力をお願いします。

※ オリエンテーションの日時・場所については、基礎ゼミシラバスに記載してください。（シラバス作成については別途依頼します。）

② 実施日程決定時の注意事項

集中講義の日程を決定する際には、受講学生と十分に話し合って決めて下さい。

通常の授業期間中には、他の授業と重複するため集中講義を実施できません。

夏季休業中に行われる科目（集中講義や専門科目の実習等）の履修者がいる場合、期間が重複する日程での開講は避けてください（学生は同時に履修できませんので、いずれかを履修できなくなります）。

どうしても調整がつかない場合は、基礎ゼミのクラス変更となります。そのため、集中講義で開講される場合は、必ず前述4－①の期間のいずれかに、初回オリエンテーションを行ってください（それ以後に日程重複が判明した場合、クラス変更は難しくなります）。

参考：1セメスター授業期間等 4月11日（月）～8月10日（水）

教職科目の集中講義 9月13日（火）～16日（金）

9月26日（月）～29日（木）

専門科目の集中講義 初回オリエンテーションまでに日程表を送付します。

5. 最大受講者数の緩和について

クラス分け作業の結果、希望の重複により20名で区切れない状況が生じる可能性があります。その場合、実験などの受講制限が必要な科目を除き、受講者数を最大22～23名（20名の1割増し）程度まで認めてくださるようお願いします。

（支障がある場合は事前にお知らせ願います。）

6. 時間割の柔軟な対応について

「基礎ゼミ」の授業時間は、月曜日の3～5講時及び木曜日の5講時に割り当てられています。

このうち5講時の授業については、次のような問題があります。

- ・月曜日5講時に授業を行う場合

学生にとって3，4講時が空き時間になってしまう。

- ・木曜日5講時に川内北キャンパス以外で授業を行う場合

4講時まで川内北キャンパスで授業を受講している学生は、キャンパスの移動に時間がかかる。

このことから、受講学生が決定した後に、学生の実状に応じて、定時刻の授業実施にこだわらない等、柔軟な対応をお願いします。

7. 実施に係る経費について

資料4『全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて』を参照してください。

申請手続き等については、3月下旬に授業関係資料と一緒に送りますので、手続きの詳細についてはそちらをご参照願います。

なお、経費は事前に申請の上、審査を受けていただく必要があります。実際の申請は資料送付（3月下旬）後に行っていただくことになりますが、基礎ゼミの計画を立てる際に、実施場所・移動手段など疑問が生じた場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

【基礎ゼミ実施経費申請の原則事項】

- ・ 基礎ゼミ実施経費として申請可能なものは、主にフィールドワーク交通費のみ。

- ・ フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- ・ 宿泊費等は学生の負担となる（教員の宿泊費等は旅費規程により支出）。
- ・ 申請可能なフィールドワークは1授業に付き1回のみ。
- ・ 授業期間中に実施する場合には、他の授業が行われる平日を避けて計画すること。
- ・ J R等の利用は片道200km以内の普通乗車券のみ（特急券は不可）。
- ・ 借上げバスの利用はJ R等の利用が不可能な場合で、片道100km以内かつ参加者数（教員含む）が15名以上の場合に可能。
- ・ 授業で使用する実験器具等の物品や、材料費等は支出できない。

【基礎ゼミ実施経費支出の注意事項】

経費支出は請求書払いを原則としますが、JR や路線バス等で請求書払いが困難な場合は立替払いとなります。実状は、「JR 等→立替払い、借上げバス→請求書払い」となることがほとんどです。どういう場合であっても、学生に立替えさせることは禁止しています。立替払いの場合、教員の旅費は別途支給されますので、学生分のみ請求し、後日、領収書またはレシートを提出することとなります。クレジットカードで利用した場合、その時の利用明細が必要となります。領収書が発行できない場合や、発行できるかが不明な場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

8. TA、SLA の活用による実施について

TA 採用については、他の全学教育科目と同様に採用することができます。採用手続きについては、12月にお知らせしますので、手続きの詳細についてはそちらをご参照願います。また、SLA（スチューデント・ラーニング・アドバイザー）制度の活用も可能です。SLA では、学部学生も雇用の対象となります。SLA の概要や応募要件等の詳細は別紙（資料13）をご参照ください。（応募締切：2月予定）

9. 基礎ゼミシラバスの作成について

シラバスの原稿は、Web から入力していただくことになります。原稿作成の依頼は、11月下旬にメールで送付します。（複数の教員で授業を担当される場合は代表教員にのみ送付します。） 締切は12月中旬となります。なお、平成27年度のシラバスは、東北大学全学教育ホームページから閲覧することができますのでご参照願います。

【URL : <http://zengaku-sy.he.tohoku.ac.jp/syllabus/>】

10. 基礎ゼミ成果発表会

9月下旬(9/30 予定)に、「基礎ゼミ」で学んだ成果を学生が発表する会を計画しております。

11. 学生による授業評価アンケートについて

授業評価アンケートの用紙を、4月上旬に各担当教員に送付します(複数教員でご担当される場合は、代表者のみにお送りしますので、アンケート用紙を、授業評価を実施する教員へお渡しください)。

授業評価アンケートは、授業の最終日等、ご都合のよい日に実施してください。

「基礎ゼミ」問い合わせ先

【全般・クラス分け】

教育・学生支援部教務課 全学教育企画係

TEL : 7 9 5 - 7 5 7 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-k@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川B - 7

【基礎ゼミ経費・教室等】

教育・学生支援部教務課 全学教育実施係

TEL : 7 9 5 - 7 5 5 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-j@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川B - 7

基礎ゼミについて

- (1)「基礎ゼミ」は大学教育への導入・イニシエーションを開設趣旨としており、1クラス20人以下の文系理系の混合した新入生を対象にした授業です。課題は専門的なものではなく、学部横断的でかつ新入生が興味を持てるようなものを設定してください。
- (2)「基礎ゼミ」は、教員と学生及び学生相互間でフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを作ることの1つの目標にしておりますので、担当の先生方の研究室でのゼミ、体験学習や実験、野外での調査や観察などをできるだけ取り入れることのできるような課題を設定していただければと思います。
- (3)一つの問題を種々の角度から横断的に考える態度を身につけさせることが「基礎ゼミ」の目標の一つとされています。その意味で一つの課題を複数の教員（2～3名）が担当することも可能です。
- (4)「基礎ゼミ」の単位は2単位です。授業の形態は、演習の他に、学生との話し合いによっては集中型、合宿型のものもあり得ると思われます。合宿の場合、一日6回分（12時間）相当と考え、1課題につき約2日半となります。学生が受講できるのは一人1課題です。

【平成27年度転換少人数科目・基礎ゼミ履修の手引き（シラバス）より抜粋】

新入生のみなさんが、これから東北大学で履修することになる多くの授業のうち、まず初めに履修する「基礎ゼミ」は、他の授業科目と異なる特別な形態と意味を持っております。

みなさんの多くは、大学受験を意識して答えのはっきりしているものを正確に記憶し、高速で読み出すメモリ能力の訓練を中心とした勉強をしていたと思います。

これからの東北大学の学生としての生活は、未知のものへの挑戦を主としますので、まず、初めに高校との違いに気づいてほしいと思います。

この授業では、他の1，2年生で受講する多くの授業のような、教員からの知識の伝達を主とするということはありません。学生が積極的に授業に参加することが求められます。教員からの一方通行の授業ではないのです。受講生は教員の出すテーマに従い、自分で工夫して調べ、教室で発表し、みんなで討論します。授業形態も様々で、実験、実習、見学を含む授業もたくさんあり、合宿で行うクラスもあります。すべての授業が終わったあとで、「基礎ゼミ」で学んだ成果を公開発表する会も計画されています。それは、大学とは何か？大学で学ぶとはどういうことか？高校までの勉強とどこが違うのか？といった問題について教員と学生が一緒に考える場でもあるということです。

この授業は、東北大学の各学部所属の教員ばかりではなく、総合大学である本学の特色を生かして、全ての研究所、センター、大学病院の教員が分担し、名誉教授にも担当していただきますので、授業で扱われるテーマは、専門的なものではなく、一般的な、入門的な、また学部横断的なものになっています。従って、**理系・文系はもちろん、入学した学部にもこだわらずに167クラスの授業テーマ、形態などの中から、興味のあるふさわしいクラスを選んでください。**いずれか一つのクラスに所属することになります。

「基礎ゼミ」のクラスで、教員やいろいろな学部の学生と真剣に学び、また、楽しいコミュニケーションを図ってください。そして、積極的に学ぶ姿勢を培ってくれることを期待します。

全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて

平成 17 年 12 月 26 日 学務審議会

平成 19 年 2 月 5 日 学務審議会一部改正

平成 24 年 12 月 3 日 学務審議会一部改正

平成 26 年 7 月 7 日 学務審議会一部改正

全学教育科目「基礎ゼミ」実施経費として、教育基盤経費の予算の範囲において、以下のとおり取扱うものとする。

1 フィールドワークに要する費用等

- (1) 受講学生が JR 線等を使用して移動する必要がある場合は、審査の上、1 授業につき 1 往復の普通乗車券購入費を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離は片道 200Km までの、受講者が全員参加の場合とし、目的地まで複数の路線がある場合は最も経済的な経路とする。

なお、JR 線等の普通乗車券の料金と同程度の料金である場合には、定期運行の路線バスとすることができる。

- (2) 受講学生がマイクロバス等を使用して移動する必要がある場合は、1 授業につき 1 往復のマイクロバス等借上費用(運転手付)を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離が片道 100Km までの JR 線等の利用が不可能な場合であり、かつ、引率教員を含めた参加者数が 15 名以上であることとする。
- (3) 上記(1)及び(2)以外の特急料金等(急行、座席指定、グリーン料金等)、施設使用経費、宿泊費等の費用は、受講学生の負担とする。
- (4) フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- (5) 引率教員は、教育基盤経費により、本学旅費規程に基づく出張の手続を行うものとする。
- (6) フィールドワーク等に参加する学生は、日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険に加入していなければならない。
- (7) ティーチング・アシスタントがフィールドワークに参加する場合は、受講学生の取り扱いに準ずる。
- (8) 上記(1)または(2)の距離を超えて実施する必要がある場合は、あらかじめその理由を教務課へ提出するものとし、基礎ゼミ委員会において協議のうえ、その可否を決定する。

2 申請手続等

- (1) 交通費を申請する教員は、授業開始前に、フィールドワーク等を実施する理由・目的地・実施期日・参加予定人数を記載した申請書に、詳細日程予定表及び参加者名簿を添えて提出する。また、交通費の配分を受けた教員は、フィールドワーク等の実施後に報告書(A4 判 1 枚程度)を提出する。
- (2) 申請書及び報告書は、基礎ゼミ委員会委員長が受理する。なお、事務処理は、教務課が担当する。

2. 講 演

「配慮を要する学生への理解と対応
～障害をもつ学生の支援も含めて～」

学生相談・特別支援センター教授 吉武 清實

平成27年度基礎ゼミFD
配慮を要する学生への理解と対応
～障害を持つ学生の支援も含めて～

高度教養教育・学生支援機構
臨床教育開発室
吉武清實

内容

- 学生相談内容の近年の傾向
- 障害をもって入学してくる学生
- ・ 配慮を要する学生
- ・ 発達障害の学生の理解と支援
- 学生対応で留意したいこと
- ・ 連携による支援
- 基礎ゼミの意義

多様な新入学生たち

- ・ さまざまな個性やタイプ、経歴、民族・宗教的背景の学生、
 - － いじめられ経験、長期の不登校体験
- ・ 発達障害等の障害を持つ学生、
 - － 発達障害、精神疾患、聴覚障害、難病等
- ・ 3.11の震災の影響を受けている学生など
- ・ 多様な学生が入学してきます

学生相談内容の近年の傾向

- ・ 学生の多様化が言われ、
学生相談の内容についても、
多様化、重度化、複雑化。

基礎ゼミ運営者として

- 「研究者」「教育者」「(クラスの)運営者」としての
教員
- 留意すべきことは
- ・ 受講学生間でのトラブルの徴候に気付いたら放
置せず対応を考えたい
- ・ 「つきまとい行為」の例は、稀ではない
- ・ みずから個人情報の管理を行い、学生にも教育
したい
- ✓ 「住所」「実家住所・電話番号」は「共有し合わ
ない、開示しない」

とくに最近 増加している相談

- 対人関係の相談
- ・ なかでも、学生間での関係のこじれ・トラブル(暴
言・威嚇・脅しのメール⇒ストーカー的行為、刑
事事件に発展するものも)
- ・ 思春期・青年期(友人作りの練習期)においての
「友を選ぶこと」の重要性
- ✓ 「身近な関係」でのSNS(‘ライン’)の登場、さらにト
ラブル発生を助長
- ✓ 「身近な関係」よりも「ネットでの関係」の

- 相談の中に多く見られるものの第一は、いつの時代にもある**学生期の悩み**に関わる相談。
- ・ 学生期のアイデンティティをテーマとして、心理的不安定状態が生じているもの。一群を占める。
- 他方、そのレベルにとどまらず、精神神経科や心療内科の医療が必要となるようなメンタルヘルス上の問題を来すようになっている一群。
- これらの**不安定状態や精神症状**はサークルイベント、レポート提出締切、発表会、試験、卒論締切などの**学生期のイベントと関連して、悪化したり回復したりする。**

- 学業不適応を長期化させている学生の相談
 - ・ 不登校、ひきこもり(一部は、背景に発達障害の傾向)
- 精神神経科等に通院しつつ学生相談を利用する学生の相談
 - ・ 入学後に精神神経科や心療内科を利用するようになる学生の増加傾向
 - ・ 入学前から利用歴のある学生の増加傾向
 - ・ したがって服薬治療中の学生の増加傾向

- 危機対応が必要となる学生への相談と援助活動
 - ・ カウンセラーと教職員のチーム援助による危機対応が必要となる学生も、近年増加
 - ・ 自殺企図学生ならびに、事件・事故の加害者あるいは被害者(ストーカー行為、暴力行為)となる学生に関する緊急対応

- 発達障害学生の相談
 - ・ 学業・研究、対人関係、進路の躓きを契機にストレスへの反応(不安、衝動)
 - ・ 発達障害学生本人から、また、その関係者(家族、教職員、サークルや研究室の同級生・先輩・後輩、恋人)からの相談、援助活動が近年急増

障害を持つ学生への配慮

- 「障害者差別解消法」成立⇒「合理的配慮の提供」の義務化(国公立)(私立も努力義務)
 - ✓ 聴覚障害、視覚障害の学生
 - ✓ 肢体不自由、難病の学生
 - ✓ 発達障害、精神障害の学生

基礎ゼミ担当者として ～連携、協働～

- 既診断学生への「合理的配慮」の流れ～1, 2年次学生の場合
 - ・ 学生からの「配慮申請」⇒「本人・(家族)＋学生相談・特別支援センター＋所属学部担当教員＋全学および学部教務係で集まって個別支援計画策定」⇒「部局長及び教育担当理事より授業担当者への配慮依頼文書」⇒「学生相談・特別支援センターを通じて、必要となった具体的配慮について担当教員等へ連絡、協議等」

配慮、支援の例

- 1, 2年次全学教育における配慮、支援
- 聴覚障害の学生
 - ・ 継続的に学生相談・特別支援センターでフォロー
 - ・ 最適座席, ノートテイクの支援
 - ・ 教室での使用マイク・補聴器適合支援
- 視覚障害の学生
 - ・ 拡大資料の作成・提供
 - ・ 移動介助を支援

配慮、支援の例

- 1, 2年次全学教育における配慮、支援
- 発達障害(自閉症スペクトラム障害)の学生
 - ✓ 継続的に**所属部局, 全学教育, 学生相談・特別支援センター**でフォロー
 - ✓ 履修計画支援
 - ✓ SLA等による学習支援(数学系科目、物理学の学習。情報基礎、自然科学総合実験レポート作成の手ほどき)
 - ✓ レポート提出締め切り日の延長措置
 - ✓ (必要が生じたとき)別室受験
 - ✓ 安心感⇒不要になることがしばしば

障害をもって入学してくる学生

- ・ 学生相談・特別支援センターでは毎年、「合格手続き書類」中に、「障害をお持ちの学生ならびに保護者の方へ」と題する、「入学直後からの支援希望を」を尋ねる書類を同封
- ・ 身体障害、感覚障害、発達障害その他の障害をもつ新入生から、それぞれ数名ずつの支援希望が寄せられてくる
 - － アスペルガー障害等 数名
 - － 過敏性腸症候群等の難病 数名
 - － 難聴、弱視など 数名
- ・ 支援:基礎ゼミ委員会やその他の委員会に連絡をとり担当教員の方と協議、支援にあたることありうる

主な発達障害

- ・ 広汎性発達障害≡ 自閉症スペクトラム障害
 - － 社会性やコミュニケーション能力といった社会生活全般に関わる基本的機能において難しさを抱える
- ・ 注意欠陥多動性障害
 - － 落ち着きがなく注意の持続や衝動コントロールに難しさを抱える
- ・ 学習障害
 - － 「読み」「書き」「計算」など特定の領域で極端な困難を抱える 全般的知的発達に遅れはない

東北大学で出会う発達障害

- ・ 高機能の広汎性発達障害(自閉症スペクトラム障害)と注意欠陥多動性障害
- ・ 多数を占めるのは、高機能の広汎性発達障害(自閉症スペクトラム障害) そのなかでもほとんどがアスペルガー症候群
- ・ 今後は、(欧米のように)学習障害の学生の入学も増加していくものと予想される

高機能広汎性発達障害の併存症

- ・ 気分障害(うつ状態)
 - ・ 不安性障害(パニック障害)
 - ・ 適応障害(不登校)
 - ・ 摂食障害(拒食症、過食症)
 - ・ 妄想性障害(精神病症状)
 - ・ 解離障害(多重人格)
- (出典)広島大学岡本百合准教授の講演資料から
- ・ 衝動的行動、対人トラブルなどの行動化
 - ・ 不登校、ひきこもり
 - ・ ハラスメントやストーカーの加害、被害も

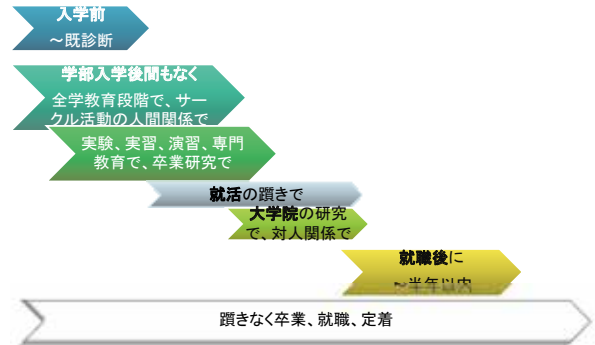
発達障害は、感覚障害、運動障害と異なり
「適応上の躓きが生じてはじめて
障害が問題となる」障害

診断・告知の契機は躓き

躓きが生じなければ「個性・傾向」、「障害」として診断されるには至らない



発達障害の学生の躓きの契機



言葉に伴う状況の理解について

- 言葉によるコミュニケーションは、一見よくとれているが、それに伴う感情や状況の読み取りは苦手
- 言葉をその通りに受け止めてしまう
例) わからないところを飛ばして次にいってはいけません
この実験は時間をかけて確かめながらやりなさい
困ったらすぐに連絡しなさい…岡本准教授配布資料から
(この3冊の本を読んで考察を書きなさい…吉武)
(相談室にいつでもいらっしやいね…吉武)
(全員に連絡取るように…吉武)

◆ 対応：具体的で、明確、場合分けをした指示や説明をするようにする

発達障害学生の支援

- ①修学支援ならびに対人関係の支援
 - ②進路・就職の支援
 - ③一般就労が困難である時の、卒後社会生活の支援
 - ④①～③のいずれにも関わってくることとして障害受容の支援
- ・専門機関を受診し診断を受けて「発達障害」であることを本人が保護者とともに受容するという作業を、いかに援助するか。

多様化する学生： 学生対応で留意したいこと

- 基礎ゼミ運営者として留意したいこと
- 人間関係のトラブルの防止、対応
 - 迷惑行為、ストーカー行為→事件化することも
- 気になる学生への対応
 - 発達障害の学生
 - 精神的症状を呈する学生
- 事故、ハラスメントの防止、対応
 - 事故
 - ハラスメント

多様化する学生：学生対応で留意したいこと

- 人間関係のトラブル
- 学生間でトラブルが発生する例も
- 模擬事例①「基礎ゼミで、グループを組んだ男子学生が夜中に頻回のメール、携帯電話、脅す内容に。怖くて授業に出られないばかりか、キャンパスに足を踏み入れられなくなり、試験が近づいてきた。他の科目も出席できなくなり、心療内科へいく事態に。医師に学生相談を勧められ来談」

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

- 人間関係のトラブル
- ・ 学生間でトラブルが発生する例も
- ・ 模擬事例②「基礎ゼミのグループの発表の準備を学生のアパートで行うことに。一人が休み、男子学生Aと二人きりになったが、そこで乱暴され.....」
- ・ 場は、「合宿の場で」なども

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

- 人間関係のトラブル
- ・ 学生間でトラブルが発生する例も
- ・ 模擬事例①②の問題点:学生間の個人情報共有を教員が行わせた。それによって①迷惑行為が発生することとなった。②暴行事件が発生することとなった。異変に気づきつつも初期対応に遅れが生じ、心身の症状をきたし、全学教育の他の履修科目にも影響が及ぶこととなった。

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

- 人間関係のトラブル
- ・ 対応:学生相談所カウンセラーを交え、担当教員ならびに学務審議会基礎ゼミ委員会委員長とで対応を協議、(他の全学教育科目に関して)→学務審議会委員長→外国語等の他の委員会とも協議
- ・ どうすれば防止できたか:
 - 不必要な個人情報(住所×, 携帯番号×, メールアドレス△)の共有をさせないようにする
 - グループ学習の人数(二人きり×)、場所(アパート×, 学内や公共的空間○)について注意喚起しておく

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

- 気になる学生
- 言葉を字義通りに受け取る、明らかに場面にそぐわない、こだわりや執拗さを伴った言動を示す等、発達障害であるかもしれない学生
- 自傷行為、緘黙など、気になる行動を示す学生
- ・ 対応:
 - ◆ 学生相談・特別支援センターとの連携(相談、協議)による支援
 - どう見守るか
 - どう学生相談・特別支援センターや保健管理センターへつなぐか
 - 学部との連携はどうするか

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

- 事故、ハラスメントの防止、対応
- 事故
 - フィールドワークや施設等見学に際し、原付で移動中に事故発生
- ・ 対応:学務審議会への連絡その他
- ・ 防止:公的交通機関の利用を指示する

震災から小さからぬ影響を受けている学生

- ・ PTSDハイリスク群の新入生
 - 平成23年度～ 59名
 - 平成24年度～ 87名
 - 平成25年度High Riskに変化 170名
- ・ 入学後の学生生活において、適応の苦しみが生じうる
- ・ 対応:個別に連絡を取り、学生相談所利用を呼びかける働きかけを実施

多様化する学生:学生対応で留意したいこと

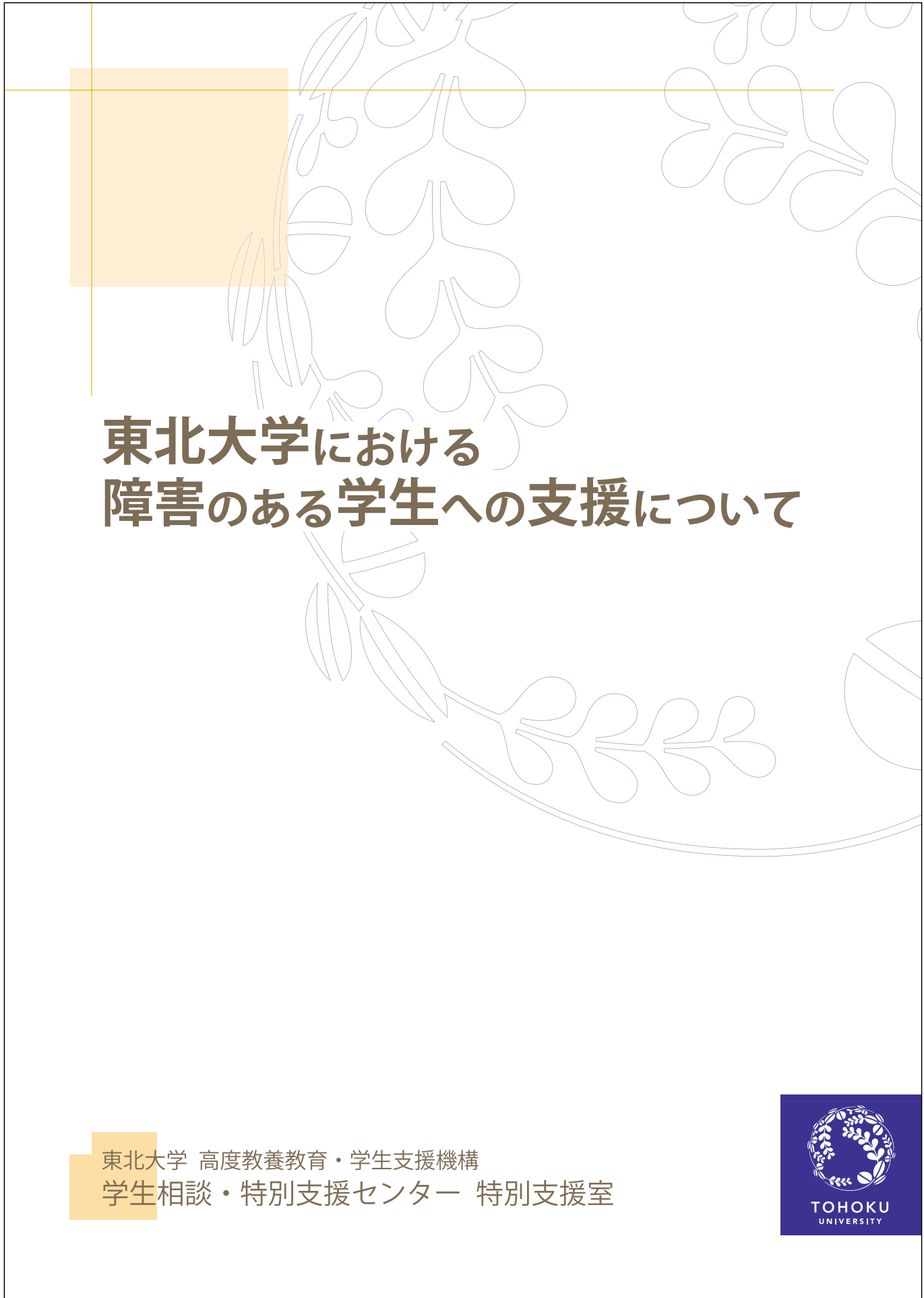
- 事故、ハラスメントの防止、対応
- 学生との一定の距離感必要
- ハラスメント
 - － 合宿におけるセクハラ
 - － 学生間のセクハラ行為や飲酒の強要を見逃す
 - － 学生に私的な付き合い、あるいは
 - － セメスター終了後も、SNSなどでのやりとり(私的交流)を強いる
- 対応:学生相談所やハラスメント相談窓口の活用。全学教育の各委員会や、全学教育教務、学部の学生相談専門委員会との連携、協議が必要な事態も
- 防止:運営者としての役割行動をとる。授業担当者としての関係と私的関係を峻別する。

基礎ゼミの意義

- 東北大学での「教養教育」「専門教育」「正課外教育」のスタート地点にある学生に基礎ゼミはどんな影響を与え、どんな意義を有しているのだろうか
- 「学びて問う:学問・研究の旅」に、また「自分づくり」の旅に誘う意義を持つものではなかろうかと推察するとともに...
- 基礎ゼミが、大学という場での相互尊重の関わり、対人交流を体験する第一歩となることを期待したい

連携の必要が生じたときには どうぞ遠慮なく

- 学生相談・特別支援センターへ
- 学生相談所 電話:795-7833
gakuso@ihe.tohoku.ac.jp
- 特別支援室 電話:795-7696
t-sien@ihe.tohoku.ac.jp
- ハラスメント全学学生相談窓口へ
- 電話:795-7812
- 電子メール:gakuso@ihe.tohoku.ac.jp



東北大学における 障害のある学生への支援について

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
学生相談・特別支援センター 特別支援室



障害のある学生への合理的配慮について

国立大学では合理的配慮が法的義務

平成 28 年 4 月より、「障害者差別解消法^{*}」が施行されます。これにより、国・地方公共団体等（国立大学を含む）では社会的障壁の除去について必要かつ合理的な配慮を提供することが法的義務と位置づけられます。

※障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

社会的障壁とは

障害のある者にとって、日常生活や社会生活を送るうえで障壁となるような事物（利用しにくい設備など）、制度、慣行（障害者の存在を意識していない習慣や文化など）、観念（障害者への偏見など）その他一切のものです。

障害（disability）とは

機能障害（impairments）のある人と態度及び環境の障壁（barriers）との相互作用から生じるものです。個人の問題ではなく、個人と環境との関係性の問題であることを意味しています。

人権保障及び差別解消の為の国際条約

日本は国連の「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」に平成 26 年 1 月に批准し、グローバルスタンダードとしての人権保障・差別解消に向けた取り組みを始めました。

合理的配慮とは

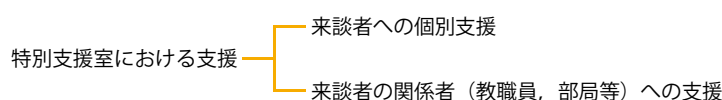
障害者から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合、負担になりすぎない範囲で社会的障壁の除去のために行う変更や調整のことです。その内容は具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性が高いものです。

本学における基本的な姿勢および体制について

- ① 障害のある学生が、差別なしに、かつ他の学生と平等に高等教育一般の機会を与えられることを確保するため、障害のある学生に必要な合理的な配慮が提供されることを確保していきます。
- ② 必要かつ合理的な配慮の提供を行っていくため、入学から卒業に至るまでの支援の実現へ向けた体制づくりを進めていきます。
- ③ 東北大学は障害学生支援の全学的専門部署として、平成 26 年 4 月より学生相談・特別支援センター内に特別支援室を設置しました。
- ④ 大学として合理的配慮の提供が義務づけられ、各部署も特別支援室もその義務を果たさなければなりません。特別支援室は学内教職員との連携のもと、障害のある学生への個別的な支援を行うとともに、様々な活動を展開しながら大学全体の支援力の向上を目指します。

障害のある学生への支援のために

1 特別支援室が担う支援活動



特別支援室では、面接の中で学生や関係者の抱える不安・心配を受け止め、助言を行ったり、必要な配慮の実現につなげるなどの個別支援を実施するほかに、以下のような活動を通して全学的な支援体制づくりを目指していきます。

❑ 教職員へのコンサルテーション（助言）

❑ 家族との連携や家族への支援

❑ 関係部署や教職員との連携・協働による支援ネットワークの構築

❑ 全学及び部局のFD等を通しての広報・啓発活動

❑ 特別支援の実践方法等に関する調査・研究

❑ 他機関・他大学等との連携・ネットワーク形成

2 障害の種別に応じた配慮の例

障害のある学生への配慮は、左ページで述べたように多様で個性があります。障害の種別に応じた配慮の代表的なものは、以下のようになります。これらは特別支援室と各部局、授業担当者、事務職員等の連携の下に行います。

❑ 視覚障害 資料等の電子データ化やそれらの点訳・音声変換、拡大読書器や照明器具の使用等

❑ 聴覚障害 （パソコン）ノートテイク、授業内容の視覚化（レジュメ等）、話す速さへの配慮等

❑ 肢体不自由 優先席の確保、移動や作業に時間がかかる点への配慮、紙媒体を電子媒体にする等

❑ 内部障害 入院や通院に伴う欠席への配慮、実技の代替え課題の用意、途中退室・休息の許可等

❑ 発達障害 注意事項等の文書による伝達、レポート提出期限への配慮、休憩室の確保、別室受験等

教職員と連携し、障害学生のためのより良い支援を具現化していきます。ぜひご利用ください。

学生相談・特別支援センター
特別支援室

アクセス



相談の申込み・お問い合わせ

学生相談・特別支援センター 特別支援室

〒980-8576

仙台市青葉区川内41

TEL: (022) 795-7696 (直通) 内線7696

FAX: (022) 795-4950

MAIL: t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

ホームページ: <http://www.ucc.he.tohoku.ac.jp/>

開室時間:

月曜日～金曜日 9:30～17:00

(祝日及び年末年始は閉室)

FDの開催や個別の相談など、
部局や教職員へのサポートも行っています。
お気軽にご相談ください。

3. 基礎ゼミ実践事例の報告

- ① 「科学技術プレゼンテーション実習」
～実験・実習型基礎ゼミ実践事例
金属材料研究所准教授 内田 健一
- ② 「医療をとりまく心理と社会ーてんかんー」
～フィールドワーク型基礎ゼミ実践事例
医学部・医学系研究科助教 藤川 真由
- ③ 「橋の材料と構造を観る」～演習型基礎ゼミ実践事例
工学部・工学研究科助教 松崎 裕

本日の内容

- ・ 講義の概要・全体の流れ
- ・ 受講生数及び所属学部等
- ・ 講義の実施結果
- ・ 学生の主体性を育むための工夫

基礎ゼミFD・ワークショップ事例紹介

科学技術プレゼンテーション実習

金属材料研究所 内田 健一

(問い合わせ先: kuchida@imr.tohoku.ac.jp, 022-215-2022)

講義の概要

第一回：オリエンテーション及び
プレゼンテーションの基礎に関する講義
(発表構成・話し方・スライド作成に関する心得など)

第二回：金属材料研究所の研究設備の見学

第三回以降：学生によるプレゼンテーション及び
議論・フィードバック

毎週月曜三限
川内キャンパス講義棟にて開講

成績：
出席40%
発表30%
質疑応答30%

講義の目的

- ・ 最新の科学技術を題材として、プレゼンテーションを実践する
- ・ 参加者間の綿密なコミュニケーションを通して、高いプレゼンテーション技術を習得する
- ・ (最新の科学技術に関する基礎知識を習得)

各メンバーが**通算2回**プレゼンテーションを実践
➡ **プレゼンテーションに慣れるのが第一の目標**

各発表に対して教員のみならず学生からもフィードバックを行うことで、互いの発表技術を向上

プレゼンテーションの内容・準備

発表内容
の決定

- ・ 科学技術に関連するトピック（分野指定無し）
- ・ そのトピックに関する基礎知識や研究開発動向を新聞、ニュース、学術雑誌などで調査（WEB情報のみはNG）

発表準備

- ・ 調査した内容から10分間の発表シナリオを構築
- ・ 発表資料の準備・発表練習
- ・ 質問応答の想定・対策

当日の
発表

- ・ 発表形式は自由（MSパワーポイントを推奨）
- ・ OHP、書画カメラ、ポスター、実演なども併用可

毎週の講義の進め方

- ・ 1回の講義につき学生3名が発表
 - ・ 1人あたりの時間配分（計20分×3）
 - プレゼンテーション 10分
 - 発表内容に関する質疑応答 5分
 - プレゼンスkill向上に向けた議論 5分
 - ・ 各発表者に向けたコメントシートを全員が作成し、講義の最後に提出（出席票を兼ねる）
- 発表者には、発表した次の講義時にコメントの要約を配布
- ➡ **次回発表時にコメント内容を反映させることでプレゼンテーション技術が向上**

情報収集・トピックの選択

7

・ 新聞記事・ニュース

科学新聞、日刊工業新聞、日経産業新聞、化学工業日報
日本経済新聞など全国誌の科学欄（WEB情報のみはNG）

・ 科学雑誌

ニュートン、日経サイエンス、日経エレクトロニクスなど

・ 原著論文

・ プレスリリース

etc...

科学技術に関連する**2010年以降**の記事・ニュースなどから、各学生が興味を持ったトピックを自由に選択

強調した点

8

- 情報の取り扱いに関する注意点（参考文献の適切な引用、悪質なコピー＆ペーストの禁止など）を強調

- 本講義のプレゼンテーションでは発表資料に参考文献や図の出展元を明記することを徹底

受講者数・所属学部

9

経済学部 1名

理学部 2名（数学、物理）

工学部 8名（機械知能・航空工学、電気情報物理学、化学・バイオ工学、材料科学総合学）

医学部 1名

歯学部 2名

計 14名（定員内）

プレゼンテーションの題材

10

学部	1回目	2回目
経	電気自動車について考える	ドローン
理	3Dプリンター	核変換技術について
理	史上最大の天体望遠鏡 TMT計画	核融合発電ITER計画
工	球の軌道が変化する仕組み	映像が本物に見えるのはなぜか？
工	人工知能と社会	防災科学技術
工	ガンに直撃 薬物送達システム	Car To Car Communicationについて
工	宇宙エレベーター	化石が教えてくれること
工	バーチャルリアリティ	プログラマブルマター
工	音声認識技術とその未来	自動運転技術
工	SCRAM JET ENGINE	未来を変えるシート -砂漠に植物を-
工	注目の材料CFRPについて	生活を豊かにするロボット技術
医	「神の手」が当たり前になる時代へ	最新視力回復術
歯	顔認証システムで変わる将来	Bluetooth で健康管理
歯	人工蜘蛛の糸 QMONOSIについて	有機EL

コメントシートの例

11

（発表内容について）

- 途中で話が専門的になり過ぎていた箇所があり、少々内容が難しく感じられた。一般向けであることを意識して工夫をすればわかりやすくなると思う。
- 身近な話題なので面白く、我々の生活にも役立つそうであることがわかった。
- クモの糸が高いタフネスを持っている原理を、図やスライドを用いて説明してほしいかった。
- グラフを示してくれたので、クモの糸のすごさが視覚的にわかった。
- 結晶領域、非結晶領域の話がイメージしにくかったので、工夫が必要。
- プロテインが体内に10万種類あるという話は、プレゼンの本題とは関係ないので、不必要に感じた。

（プレゼン技術について）

- スライドはシンプルでわかりやすかったが、口頭での説明が多くスライドに記載がなかったのが頭に入ってこなかった。
- 文と文の間の長さが、ただただ長い部分があった。もっと接続詞を入れて話した方が、滑らかにプレゼンできるのではないかと感じた。
- すべての質問に答えていて、下調べがよくされていたように感じた。技術内容についてよく理解していると思った。
- グラフや写真が多くて見やすかった。
- 一つのスライドに情報が集中しておらず、簡潔でわかりやすかった。
- 文字が多すぎると良くないが、今回のスライドには情報が少なすぎたと思った。
- ジェスチャーを交えてプレゼンをしているのが良かった。
- 箇条書きだけでなく良いので説明をスライドに記載して、聴衆を飽きさせない工夫が必要なのではないかと感じた。
- 堂々としていてよかった。
- 声の大きさ、文字の大きさは適切だった。
- スライドの色使いがよかった。
- 手元の資料を見ながら話していたので、内容が伝わりやすかった。前を向いて話すよと思う。
- 質問の回答に自分の意見も交えていたのがよかった。



12

基礎ゼミ成果発表会で
学生1名（工学部）が
口頭発表

発表タイトル：
How to presentation

学生の主体性を育むための工夫①

13

- ・出席率やプレゼンテーションのみならず、他学生の発表に対する質疑応答の積極性が成績評価に大きく反映されることを初回の講義時に強調

➡ 自分のプレゼンテーション担当回だけ積極的に参加すればよいという状況を回避

- ・教員からのコメントのみならず、他学生のプレゼンテーションに対する学生間の議論・フィードバックを重視

➡ 講義への積極性・プレゼンテーション技術の大幅な向上

- ・プレゼンテーションの上手さのみを単純に評価するのではなく、1回目と2回目の差（前回コメントの反映度合）も考慮して評価

学生の主体性を育むための工夫②

14

各プレゼンテーションの発表内容に対する質疑応答や発表技術向上のための議論における教員からコメント・アドバイスは、聴講学生からのコメントが出尽くした後に



- ・先に教員がコメントしてしまうと、それと反する意見を言いづらくなってしまうため
- ・各学生に「良いプレゼンテーションとは何か？」に対する答えを自分なりに探してもらうため

学習態度・課題・学生からの評価

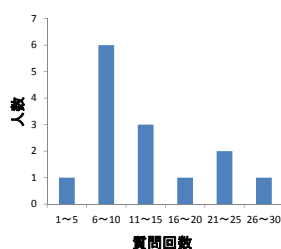
15

【学習態度】

学生の出席率はほぼ100%
絶え間なく学生の質疑応答が交わされ、学習態度は申し分なかった

【課題】

プレゼンテーション当日の急な欠席等に対するリスクヘッジ



【学生からの評価概要】

プレゼンテーション技術の重要性を認識している学生が多く、学部生は発表の機会が少ないこともあり、本講義はプレゼンテーションを実践するための貴重な機会として認識されていた。

平成27年度 基礎ゼミ実践事例②

医療をとりまく心理と社会 ～てんかん～

医学部・医学系研究科てんかん学分野
助教 藤川真由

2015.11.10. 第9回東北大学基礎ゼミFD・WS

フィールドワーク型

担当：医学系研究科てんかん学分野
教員：中里信和 神一敬 岩崎真樹 柿坂庸介 藤川真由
時間：木5（7回）・集中講義（2回）
受講者：6名（医看・歯・理・工・文・教）
受講動機：

- ✓ 知人がてんかんで就活に苦労していたから
- ✓ 文学部だと一生医療系に関わる機会がないから
- ✓ 障害児の教育に携わりたいから
- ✓ ニュースでてんかんの事故を見たから

脱講義型
少人数制

シラバス：授業の目的と概要

「てんかん」という疾患に、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？てんかんは、有病率1%の万人の病。日本におけるてんかん治療は目覚ましい進歩を遂げてきました。しかし、てんかんに対する偏見や誤解が、一般社会、メディアのみならず、医療者間にも今なお根強く残っています。そのため、患者の多くが、学校でのいじめや過剰な特別扱い、労働能力に非する就労困難、結婚・妊娠の問題など、心理的、社会的、経済的な面でも影響を受けているのが事実です。疾患に対する正しい理解の欠如だけでなく、患者のおかれている立場や状況を「想像し共感する」機会が乏しいこともその一因と考えられます。本基礎ゼミでは、①てんかんという病気を、医療の枠を超え多面的な角度から学習・考察し（講義型）、②啓発活動イベントへの参加（実習型）を通して、てんかんをもつ人達のおかれている社会的問題について考えます。多学部生の参加を期待しています！

「てんかん」の定義

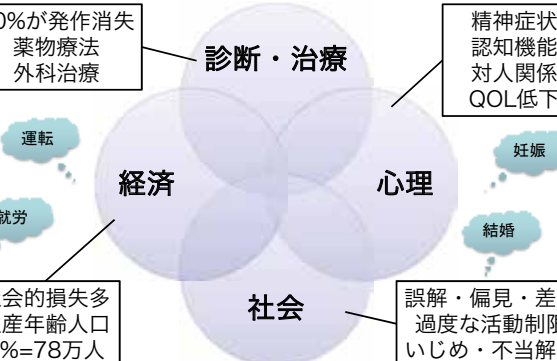
脳における過剰または同期性の異常なニューロン活動による一過性の徴候または症状で、てんかん発作を引き起こす持続性素因とそれによる神経生物学的、認知的、心理学的、社会的な帰結を特徴とする脳の障害である。

有病率1%＝万人の病

(国際抗てんかん連盟 [ILAE], 2005)



多面的な問題



診断・治療

- 70%が発作消失
- 薬物療法
- 外科治療
- 精神症状
- 認知機能
- 対人関係
- QOL低下

経済

- 運転
- 就労
- 社会的損失多
- 生産年齢人口1%=78万人

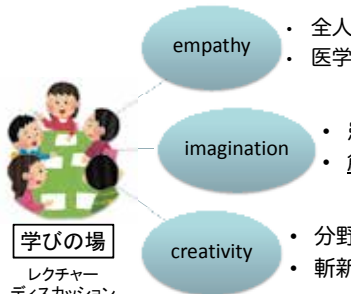
心理

- 妊娠
- 結婚

社会

- 誤解・偏見・差別
- 過度な活動制限
- いじめ・不当解雇

裏シラバス：教育的位置づけ



学びの場

レクチャー
ディスカッション
フィールドワーク

- empathy**
 - ・ 全人的に「見/診/観」る力を育む
 - ・ 医学のみでは解決しがたい問題
- imagination**
 - ・ 患者の人生を想像
 - ・ 創造的アイディア
- creativity**
 - ・ 分野の枠を超えて集結
 - ・ 斬新な発想・着想を促進



シラバス：学習の到達目標



学習の到達目標：

- 1) てんかんの一般知識, 日本でのてんかん診療の現状を理解する.
- 2) てんかんをめぐる社会的問題（いじめ, 就職, 運転, 妊娠）について学習・考察し, 自らの意見を述べる.
- 3) 世に氾濫する多くの情報から正しい情報を自ら取捨選択する思考を得る.
- 4) カナダ発祥の啓発活動「Purple Day」イベントに参加し, 国際交流を通して、今後の一般社会の担う役割を考察する.



東北大学グローバルリーダー(TGL)育成プログラム指定科目



成績評価方法



出席状況 40%

参加度 30%

ミニットペーパー 10%

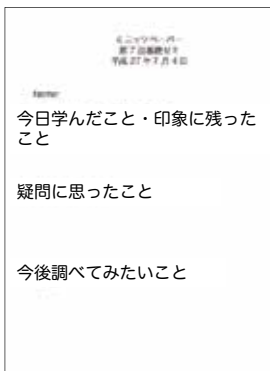
課題発表 20%

連絡窓口：藤川真由 (mfujikawa@med.tohoku.ac.jp)



ミニットペーパー





活用法：
授業前に配布
→終了時回収
→次回再度配布

目的：
✓理解度・ペース確認
✓感性や内省力アップ
✓自主性や探求心を常にキープ



最終課題



最終課題：発表

テーマ：原則自由

- ✓知識と想像力で問題抽出・解決法を探ろう！
- ✓自分の専門分野や興味をどう活かす？
- ✓相談・相談・相談



授業計画



月日	コマ数	担当教員	テーマ
4月16日	0	藤川・柿坂	オリエンテーション
5月14日	1	中里	てんかんとは？
5月21日	1	岩崎	てんかん診療モデル：日本 vs 海外
6月4日	1	神	てんかんの診断と治療・脳波検査体験
6月11日	1	柿坂・藤川	てんかんと心理社会的問題：患者症例
6月20日	3*	岩城・全員	てんかんの合併症・症例検討会参加
6月25日	1	藤川	てんかんとメディア・調査準備
7月4日	5*	北澤・全員	パープルデー国際イベント参加・調査
7月9日	1	柿坂・藤川	課題発表準備
7月16日	1	中里・柿坂・藤川	発表と討論・総括

* 集中講義



授業計画



月日	コマ数	担当教員	テーマ
			オリエンテーション
			てんかんとは？
			てんかん診療モデル：日本 vs 海外
			てんかんの診断と治療・脳波検査体験
			てんかんと心理社会的問題：患者症例
			てんかんの合併症・症例検討会参加
			てんかんとメディア・啓発活動
			パープルデー国際イベント参加・調査
			課題発表準備
			発表と討論・総括

知識

学びの転換

多様なモダリティを使用

知識

講義・資料

WHO 世界保健機関
「てんかん」って何？
くりかえす発作が特徴の
脳の疾患です

体験

てんかんなら心配ありません
怪我せずに終わるよう待ちましょう

ビデオ

フィールドワーク①医療現場

6/11 てんかんと心理社会的問題：実症例で討論・予習
6/20 症例検討会参加

医療で患者さんはどのように討論され治療方針が決まる？
患者一人に多診療科・多職種・遠隔会議システムがかかわる理由

学びの 転換

フィールドワーク②社会

6/25 てんかんとメディア・調査準備
7/4 国際的啓発イベント「Purple Day」に参加・調査

当事者や家族の想い・悩みは？
一般の参加者はてんかンをどのように捉えてる？

メディアとの企画連携・取材

Purple Day Sendai 2015

Superior Education
around the World

フィールドワーク②インタビュー

職場にはどうやって
話したの？
理解してくれた？

社会に何を
伝えたい？

We are very inspired by
your talk! Thank you!

学びの 転換

スーパーバイザー教員・通訳

最終課題発表に向けて

探究心を尊重
研究サポート

- ✓ 考える道筋を示す
- ✓ 情報検索の仕方
- ✓ 参考文献を提供
- ✓ 学生の発言にポジティブにフィードバック

体制：
グループワーク
ホワイトボード2台
検索用PC2台
教員2名（医師・心理士）

なるほど～、なぜそう思った？
君がこの患者だったら？
どんな知識があれば答えが
見つかる？

課題発表

グループ1（3名）
「てんかんの社会的課題」

グループ2（3名）
「てんかん啓発の重要性」

- ✓ 質疑応答・ディスカッション
- ✓ 互いのグループへのフィードバック
- ✓ 最後に教員の感想



基礎ゼミ成果発表会



学生2名が自主的に応募：

「今こそてんかんの時～てんかんの啓発活動を通して～」

プレゼンテーション賞を受賞！

てんかん啓発の大学サークルを立ち上げようと邁進中！



実践事例の紹介③ 橋の材料と構造を観る

工学部・工学研究科
内藤英樹, 斉木功, 皆川浩,
○松崎裕, 宮本慎太郎,
岩熊哲夫, 久田真, 鈴木基行

シラバスの概要

- (1) 橋と私達の生活
橋の歴史, 普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
紙で橋の模型を作り, 載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
牛越橋から霊屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう+まとめ
構造物の地震時挙動, 地震被害に関する概説, まとめ

受講生数および所属学部等

工学部 17名
(機械知能・航空工学科4名, 建築・社会環境工学科13名)

医学部 2名
(医学科1名, 保健学科1名)

理学部 1名
(物理系1名)

学生の主体性を育むために工夫した点

- 対象の **普段の生活との関わり** を説明し, 関心を引き出す.
- 専門用語を使った説明ではなく,
できるだけ **動画** や **写真** を活用してイメージの定着を図る.
- **コンテスト形式・プレゼンテーション** の採用
- **フィールド調査** の活用
- 簡単な **実験** の活用

以降, 授業の全体の流れに沿って説明

シラバスの概要

- (1) 橋と私達の生活
橋の歴史, 普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
紙で橋の模型を作り, 載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
牛越橋から霊屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう+まとめ
構造物の地震時挙動, 地震被害に関する概説, まとめ

橋の起源と文化: テーマと生活との関わりを意識



対岸に渡るため・・・

人, 車, 水道管, ガス管等が
橋を使って渡っている.

京都・鴨川の飛び石



多くの人々が集まる
橋のたもと
商業や文化の発信地に

東京・日本橋

様々な材料・構造形式から成る橋



シラバスの概要

- (1) 橋と私たちの生活
橋の歴史、普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
紙で橋の模型を作り、載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
牛越橋から霊屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう＋まとめ
構造物の地震時挙動、地震被害に関する概説、まとめ

代表的な建設材料：鋼



代表的な建設材料：コンクリート

材料の混合割合(例)

1000 Lあたり

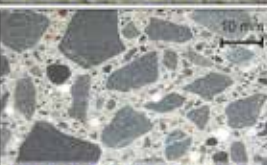
微細な空気 50 L

セメント 100 L

水 170 L

細骨材(砂) 300 L

粗骨材(砂利) 380 L



橋の力学を分かりやすく説明

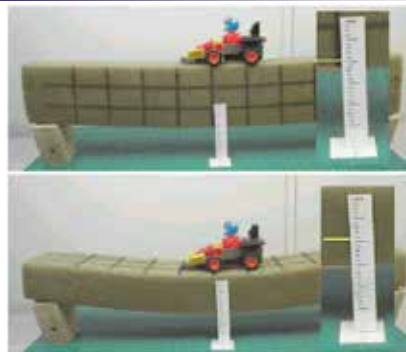
じゃあー、どっちが強い？

同じ「けた」を「横長」にしたときと、「縦長」にしたときと、どっちが強い？
どっちがたわみにくい？ それとも、どっちも同じ？

同じコスト(材料の量は同じ)で、より強い、より安全なのはどっち？

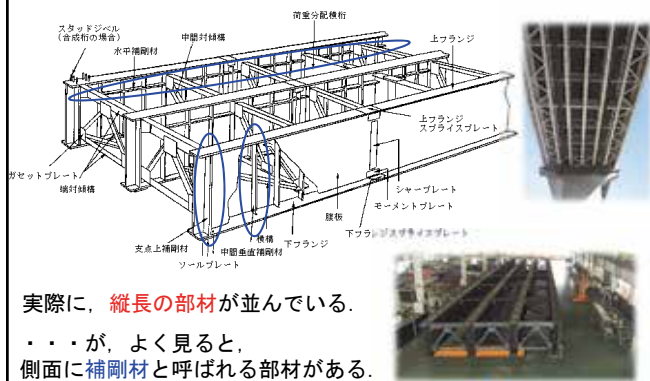


橋の力学を分かりやすく説明



実は!!! 抵抗の比は $\frac{63}{21.4} = 2.94$ 倍 (ここは物理 [そのうち習う 構造力学])
すると、たわみは抵抗に反比例するから $4 \text{ mm} \times 2.94 = 11.8 (\approx 12 \text{ mm})$

様々な部材から成る橋の構造を概説



単に細長ければ良いわけではないことも説明

鋼材は圧縮強度が高いが、
薄い板は座屈を生じやすい。



次回以降の
 ペーパーブリッジコンテスト、
 フィールド調査において必要な
視点を意識させる。

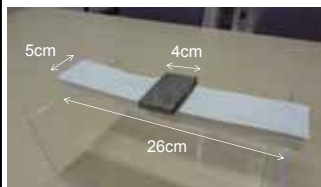
シラバスの概要

- (1) 橋と私たちの生活
 橋の歴史、普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
 橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
 橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
 紙で橋の模型を作り、載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
 牛越橋から霊屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう＋まとめ
 構造物の地震時挙動、地震被害に関する概説、まとめ

ペーパーブリッジコンテスト

制約条件

- ◆橋の幅員：5 cm
- ◆スパン：26 cm
- ◆材料：ケント紙A4@1枚、ホットメルトボンド
- ◆載荷方法：橋が壊れるまで、
 支間中央に幅4cmの鋼板を1枚ずつ増やして載荷
- ◆幅5cm×長さ28cmのケント紙を床版として使用すること。



幾つかの制約条件は設けるが、
 あとは**学生の自由な発想を重視**

ペーパーブリッジコンテスト



工夫した点、**予想荷重**などを
 発表してもらい、
 慎重に錘を増やしていく・・・

結果を踏まえて、
 より強くするために
改良すべき点を発表してもらう。

シラバスの概要

- (1) 橋と私たちの生活
 橋の歴史、普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
 橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
 橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
 紙で橋の模型を作り、載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
 牛越橋から霊屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう＋まとめ
 構造物の地震時挙動、地震被害に関する概説、まとめ

広瀬川に架かる橋の調査：コース



19

広瀬川に架かる橋の調査：調査の様子



20

シラバスの概要

- (1) 橋と私たちの生活
橋の歴史、普段の生活との関わり
- (2) 橋の材料と構造
橋に使われる代表的な材料である鋼とコンクリートの特徴
橋の構造形式の概説
- (3) 橋をつくってみよう
紙で橋の模型を作り、載せられる荷重を競うコンテストを実施
- (4) 広瀬川に架かる橋を調査する
牛越橋から壺屋橋まで歩きながら調査
- (5) 地震に強い橋を考えよう+まとめ
構造物の地震時挙動、地震被害に関する概説、まとめ

21

受講学生にとっては生まれる前の阪神・淡路大震災



兵庫県南部地震以前の
落橋防止装置
(小さな地震力で設計)

兵庫県南部地震後に
追加された落橋防止装置

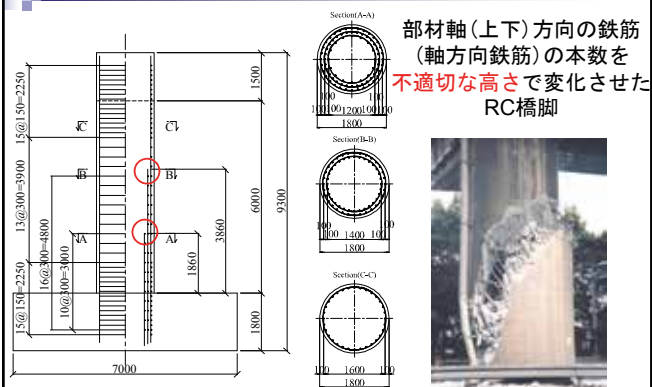
現実的な地震力を見込んだ
耐震設計への展開

落橋だけは防ぐ
フェイルセーフ機能の確保



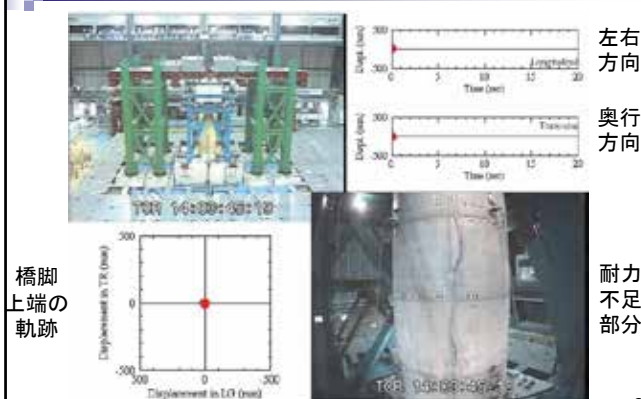
22

地震被害の動画による説明 (阪神大震災の代表的被害)



23

地震被害の動画による説明 (阪神大震災の代表的被害)



24

記憶に新しい東日本大震災で新たに生じた課題も説明



(撮影：NEXCO東日本)

ゴムの部分ではなく、鋼板とゴムの
接着部分で切れている



原因を追及する必要がある

25

携帯振動台を使った簡単な実験



構造物が揺れる周期や、同じ地震動でも構造物によって
揺れ方が異なることを**実際に見せながら説明**

26

まとめ

学生の興味・関心、自主性・積極性を引き出すため、

- 授業の導入部分では、普段の生活との関わりなどを説明し、**扱うテーマをできるだけ身近に感じてもらう**ことを心掛けた。
- 適宜、**フィールド調査**の活用を図ることも効果的
- 専門用語を使った説明ではなく、**実験や動画・写真を活用**して、できるだけイメージを持ってもらえるように工夫することが大切
- **コンテスト形式やプレゼンテーション**の採用によって、学生の自主性や積極性をできるだけ引き出す授業形式とした。

27

4. ワークショップ ―学生の主体性を育む授業方法―

A～C グループの3グループに分かれ、事例報告者を交えてグループ作業を行った。

《 ワークショップ ―学生の主体性を育む授業方法― 》

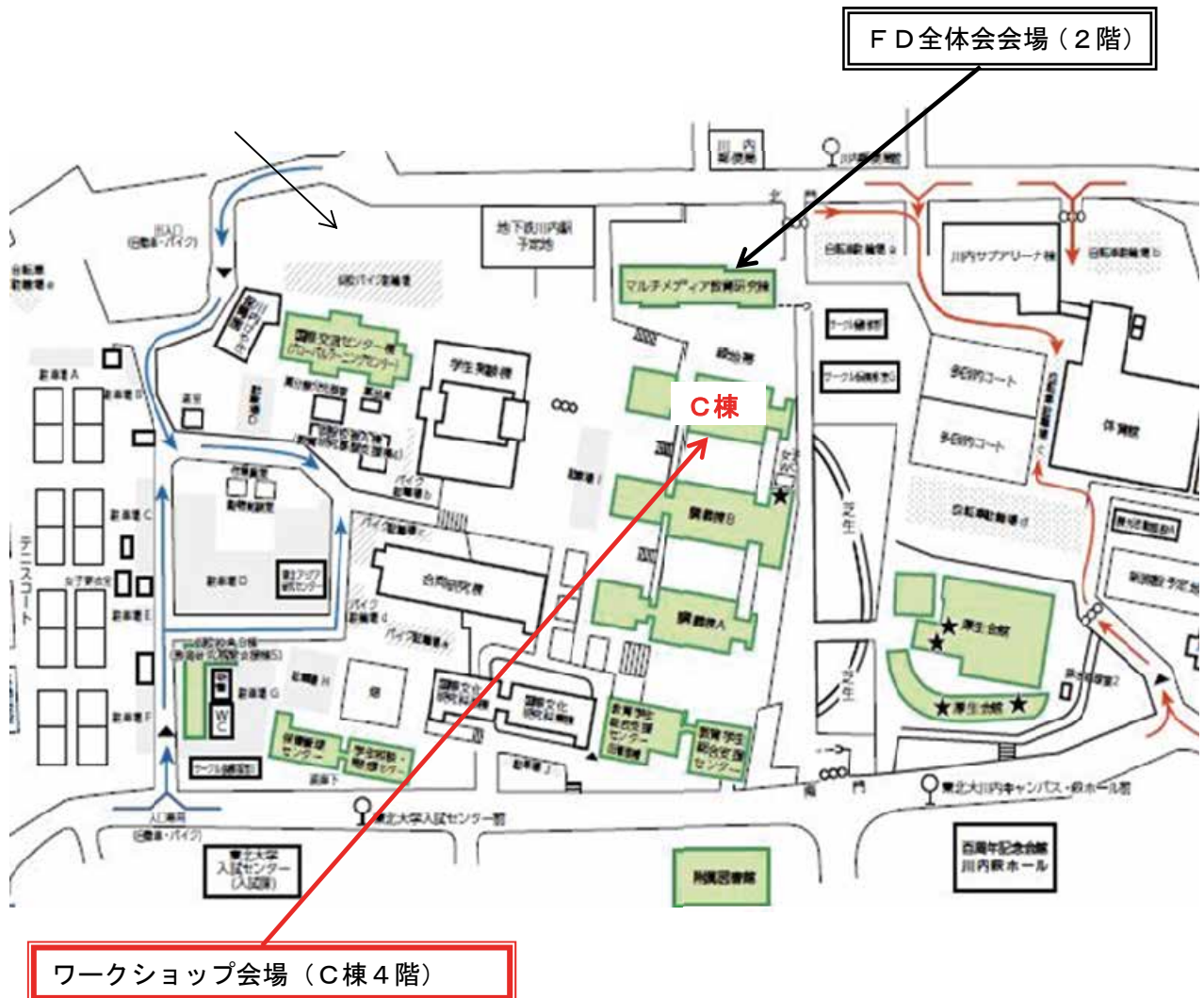
- ◇グループ作業の最初に、参加者の中から「司会」「意見発表者」「書記」を決める。
- ◇講師の実践事例報告に対する質疑応答・補足説明の時間を設け、フリーディスカッション形式で、受講学生の主体性を育む上で特に工夫した点などを確認する。
- ◇TA、ゼミ生が参加するグループでは、TA やゼミ生からも授業改善のための意見を出してもらう。
- ◇「書記」はグループ作業での検討経過等を記録用紙に記述する。
- ◇参加者全員の討議により、基礎ゼミにおいて「学生の主体性を育む授業方法」の「良い手法 3 例」「改善を要する手法 3 例」を「司会」がまとめる。
- ◇作業成果としてまとめた「良い手法 3 例」「改善を要する手法 3 例」を「意見発表者」が全体会において発表する。
- ◇作成した記録用紙及び発表用 PowerPoint は、後日報告書として発表するため、ワークショップ会場の USB メモリに保存する。書記は、記録者の欄に必ず氏名を記入すること。

[A グループ]：(講師) 内田 健一	(世話役) 藤本敏彦
[B グループ]：(講師) 藤川 真由	(世話役) 関内 隆、高橋禎雄
[C グループ]：(講師) 松崎 裕	(世話役) 葛生政則

◎進行予定表 (15 : 10 ~ 17 : 00)

ステップ	消費時間	時刻
I グループ作業	80 分	15 : 10 ~ 16 : 30
1 イントロダクション・自己紹介・役割決定 (記録用紙記入開始)	10 分	15 : 10 ~ 15 : 20
2 実践事例報告をめぐる質疑応答・補足説明	15 分	15 : 20 ~ 15 : 35
3 討議	40 分	15 : 35 ~ 16 : 15
4 まとめ (発表用 PowerPoint 作成)	15 分	16 : 15 ~ 16 : 30
会場移動 : 16 : 30 ~ 16 : 35		
II 全体発表・質疑	25 分	16 : 35 ~ 17 : 00
各グループ発表	5 分 × 3 グループ	
各グループ質疑	3 分 × 3 グループ	

川内北キャンパス配置図



C棟 4階

5. 発表・質疑（各グループの成果発表）

第 9 回 東北大学基礎ゼミ F D ・ワークショップ 記録用紙

A グループ	記録者名：江川 新一
役割決定：司会（高田昌樹）、意見発表者（今宿晋）、書記（記録用紙 江川新一、パワーポイント 伊藤幸博）	
実践事例報告をめぐる質疑応答	
● 学生の主体性を引き出すための工夫 ● 土台づくり ● プレゼン 2 回によって、学生の工夫が引き出された。 ● 題材を選ばせるときの指導は？：ウェブのみから選ばないこと。題材の限定はしていない。 ● 1, 2 回目は違っても同じでもよいと考えたが、学生が選んだことは 2 回で異なっていた。同じものを選んでつまらないと学生が考えた。 ● 自分が受けた教育の経験は同じようだったか？：ミニレクチャーは必用。 ● パワーポイントは半数以上の学生が使ったことはなかった。大学の共用 PC で作成できる。使い方の講義も短時間行った。 ● 参加学生の名前は覚えたか？：2, 3 回のうちに覚えた。 ● 学生の進歩が見える部分となかなか進歩しなかった部分は？：回を重ねるごとに上達が見られた。大学生活になれてやや進歩が鈍る学生がいた。 ● プレゼンテーションスキルの掘り下げと、発表内容の掘り下げに指導したか？：発表内容の掘り下げは目的ではない。発表スキルの向上が目標 ● まとめるのは大変では？：建設的でないもの、重複を取り除くために必要。誰がコメントしたかも匿名性を保つ。 ● 改善点があるか？：おおむねうまくいったと思っている。2 回目は作業になりがち。2 回目はテスト期間が近かったりした。 ● 基礎ゼミプログラムに対して改善要望は？：特になし。 ● 学生が休んだときの対策は？：1 人分の余裕はあったが、複数になったら補講をする必要があったが、自由性もある。 ● プレゼンに対してコメントを受け入れることはあったが、ディベートを考えてもよかったかもしれない。 ● 1 回目と 2 回目で相関はあったか。：他人の影響は少ない。すべてのプレゼンテーションは独立していた。他のプレゼン技術を推奨することもあった。 ● 何を発表してくるかはわからないため、発表者がもっとも専門家として対応する。 ● ハンドアウトは配布させたか：学生のはハンドアウトなし。著作権にもかかわる可能性があるため。 ● 発表会に学生が参加したときのサポートは？：学生が自主的に参加した。自分のゼミ学生が発表するのは分かっていたが、とくに発表内容の指導はしなかった。	

- 聴衆のことを考えさせるようにしたことはよかった。
- 基礎ゼミを企画するときにより手法となるためにどういう点を考えたか？：発表したとおりだが、毎週このゼミがあることを嫌に思わないように工夫した。
- どういうことが学生のモチベーションを上げたか？：出席と質疑応答が評価の 70%を決めるため、出席することを大切にした。
- 1年生全体が必修なのか？：必修です。2年生でとることも可能だが、時間的に困難なので、ほとんどは1年生のうちにとる。
- 学生の評価は？：教務として統一アンケート。プレゼンの機会があることがよかった。うけてよかったです。
- そのほかのプレゼンテーションを聞かせる工夫は？：できなかった。
- TED のようなことは？：TED に影響された学生はいた。
- 高校生のときに講師のプレゼンをみた学生もいた。
- 第1志望の学生と第2志望の学生でモチベーションが違う。

討議（よい手法3例、わるい手法3例）

- よい手法
 - ディベート
 - ✧ 争点を議論になりやすいものに。
 - グループワーク
 - フィールドワークの概念を広げる
 - ✧ 単に外に出るだけではなく
 - プレゼンテーション
 - ✧ 相手を教えることによって自分が学ぶ効果がある。
 - ✧ 前回のコメントシートをどのように取り入れたか
 - 留学生、障がい者を混ぜることには大きなメリットがある。
 - ✧ 多様な視点をとりこむ
- 改善を要する手法
 - 講義
 - いわゆる来週までの宿題は出さない
 - あまり楽すぎるのもよくない
 - 何を学んだかわからない
 - ビデオを見せるだけではだめ
 - 外国人がきたときにどうするか？
- 基礎ゼミ運営への提案
 - 他の学部の学生をいかに呼び込むか
 - 他の分野との関連をどうすすめるか：教官側が閉じこもらないように。
 - 担当した教官を高く評価するしくみの改善：それぞれの分野の発展につながるように。

- 1年生を見ることの意義
- 評価が高かった基礎ゼミをウェブで発信。総長教育賞の活用など。

Aグループ 発表用パワーポイント用紙

発表者名 今宿 晋

良い手法

- ・ 学生自身の学びを相手に教える（プレゼンやディベートなど）
- ・ 過度でもなく、怠けることもできないほどの負荷が必要
- ・ 普通の講義とは異なるという意識を持たせる運営
- ・ いわゆる宿題（受け身）は出さない

改善を要する手法

- ・ 学生が休んだ場合の調整
- ・ 一方通行にならないようにする
- ・ 第一志望以外の学生の意欲を高める手法が必要
- ・ 留学生が来た場合の対応（いかに取り込むか）
- ・ 多様な分野の観点を取り込めるようにする（他学部の学生を取り込む要素を入れる）
- ・ 担当教員にインセンティブを与える仕組み（評価されたうえでウェブでの紹介など）

第9回 東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ 記録用紙

Bグループ	記録者名：渡辺 秀典
実践事例報告をめぐる質疑応答・補足説明 Q. 議論をどうやってもりあげるのか A. ミニットペーパーを積極的に利用した A. 疑問について回答を誘導しない Q 自宅学習をどれほど推奨するのか（オーバーワーク） A. ゼミの時間内で学習が完了するように努める A. 宿題も課さない A. 発表前の準備について自宅で勉強しているかはわからないが参考文献を持ち帰った例はあった. A. 基本的には医局で実施した. Q 教員からの質問はその場の思い付きで行うのか？ A. 大きな流れとしては授業計画に従う。質問についての議論についてはその場で結論をだすまでには至らない. Q どのように複数の教員を動員するのか A. 各教員のトピックはあるが、カリキュラム全体を通しての方針に則った授業を担当してもらった Q 学生のレベルからくる問題点は？ A. 議論になれていない点が主な問題 Q テーマをチョイスする手助けは？ A. 最初のテーマからシフトしたり、最初に挙げた3つのテーマを掘り下げたりした. Q 講義は一講義完結がよいのか A. 複数回の講義でもよい Q ミニットペーパーの有効性 A. 次の授業への微調整と個々の学生の動向把握. 学生への添削（フィードバック）はしなかった.	

討議

よい手法：

- ・毎回のフィードバック（ミニットペーパー）
- ・実体験の重要性（一方で倫理的問題には配慮する．主体性を育むためには臨・床実例は良いが学生には現場（フィールドワーク）には行かなかった．）
- ・学生が発表する機会を設ける．

改善点：

- ・抽象的な質問よりも，具体的な質問などが有効
- ・正解のない課題をあえて与えて学生が自主的に考える機会を与える．
- ・専門的な内容をさける．講義だけゼミはさける．
- ・個人情報の管理に配慮しないプロトコルは排除する．公表してはいけない内容については授業の最初に説明する．

メモ

身近なものを題材にするのは自主的に学生が動く．

ミニットペーパーは学生の自主性を誘導するのに有効（具体的な質問など）．

Bグループ 発表用パワーポイント用紙

発表者名 美濃川 拓哉

良い手法

- ・ 主体性を引き出すためには 具体的な例を多く出す
- ・ 毎回のフィードバック（ミニッツペーパー）、申し送りは重要
- ・ 実地体験の重要性 身近な例を用いて課題を与える
- ・ 毎回、グループディスカッションさせて 短くまとめさせる
→教員の一方的な授業を避ける

改善を要する手法

- ・ 専門的過ぎる授業内容
- ・ 医療情報管理に無頓着な指導
- ・ 広めてはまずい内容（機密情報）の漏えいを許してしまう
雰囲気

第9回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ 記録用紙

Cグループ	記録者名：原田 伸彦
松崎先生の補足 ペーパーブリッジテスト 実施してからフィードバックまではいけなかった。 出席、レポートで評価した。成績評価で自主性がでるかも。 質問事項 出席率は？ 広瀬川の調査は創立記念日で欠席が2名。 興味は建築工学の人だが、他の学部とのレポート内容の違いは？ A あまりないようでした。橋は建築分野と勘違い、土木だが建築材料と科の学生が興味があった。 授業内容の回数による密度 一回の3コマずつでおこなった。天気には問題がなかった。ブリッジの作成とかがあるので。 ディスカッションの機会は？ コンテストの時には教員は原則意見を挟まないが、必要最低事項を教える。 教員が黙っていると、進行しないのでは？ テーマにもよるが、自分で事前調査が必要にしておけば興味がわいてくるのでは？ 広瀬川は市調査の前で、知識を植えてから、歩いたが、見るべき事項を自分で意識していたか？ 結構自発的に構造に興味を持って、自分でポイントに気づいてみていた。後から教員が説明を足した。 未消化でも自分の意見を言いなさいと言っていたが、プレゼンで完成したが、これは事前に誘導しているところがあったのでは？ イメージを事前に持っていてから、実物を見ることで非常に興味を増してしてくれた。体験を交えながら理論を補足した。ちょうど良いループになっていた。 この授業回数で、ある程度にするには座学が必要？ 1, 2回の前半が座学だが、見る目がないといけいないので座学が必要。	

学習時間の確保は？

時点、時点での知識の確認がなくてもだいじょうぶか？

2 回目の座学内容は実地の時に反復してりかいをふかめるのでは。コンテストも。

レポートの内容は？

歴史的な橋からいろいろな内容でした。

プレゼンテーションは、準備の時間をどうするのか？時間内もしくは時間を他にとる？
外での学習時間など授業内で何とかなつたと思う。

個人差どの程度気にするべきか？教員の対応をどこまで面倒見られるか？

オムニバス形式だった。教員間での視点の連携共有化は行った。

オムニバスでの意思統一はむずかしいのでは？

3 コマごとに教員が変わるのに学生がついていけるのか？

教員とプログラムがこなれていた。

コンテストは個人戦？

個人戦で競争心と責任感がでるのでよかった。

コンペとプレゼンの違い？

途中経過が見られないが結果がいつぺんにみられる。

理論と実践の違いがあるので、作りやすさと強度のバランスを考えられる。

医学部と工学部の橋の出来の違い？

個人差はあるが学部間の違いはない。事前に座学で知識を共有していても差が出る。

プレゼンとコンテストの違いがある。

達成感があるのがよかった。これを若い時から体験できるのがとてもよかったと思う。
ある程度の結果を出すことができる。

実験的なことをどこまでやらせることができるか？

結果が分かっていることならできる。今回は理論と実際の違いも体験できる。

30分で設計。1時間半で製作。結果はすぐに出る。20人が限界かもしれない。

演習型授業で実験を1年生ができて、結果を評価できるのがよい。

1. 実際に実験をするのがよかったが時間的制約との兼ね合いと授業形態の十分な準備が必要。小さな成功体験を実験に組み込めればベストな形態だとおもう。

2. 教員同士の意識の共有ができていてオムニバス形式であるが統一感が出来上がっていたのがよい。

問題が起きた時は特に話し合いをしたが、それ以上は気にしなかった。ローテーションは組まれているが、担当分野自体で統一化が図られていた。教員の意識の共有化が十分。橋というテーマがよかった。やり方が洗練されていた。

部局によっては5分野の持ち回りで、あまり統一感が出せそうにないときはどうしたらよいのか問題があるのでは。いくつかのテーマの制約がある中で統一感を出すのは難しい。

オムニバスは多い？

基礎ゼミはかなり多い。意識の共有化ができれば面白いものになるが、教員の数など問題が出るが、十分な準備ができれば、改善しながらしばらく使える。

3. 教員が面白いと思うテーマが学生にとっても教員にとっても楽しくモチベーションを高く保てるのでは。学生もそれに応えてくれる。

トピックス的な面白さか、達成感を得られるものの両方の要素が必要。

橋を見に行くというフィールドワークは非常に効果的だったのでは？

実際の現場を確認できて学生の興味を刺激できた。

1年生というのがよかったのかもしれない。

評価は出席とレポートなど内訳を事前に示すのは主体性に影響するか？

主体性がうまく乗せれば学生から出てくる。

評価基準はむずかしい。一生懸命やっていればみんなよいのでは？

東北大は絶対評価なので、みんなAでも問題ない。教員と学生が熱心なら評価もお互い良くなる傾向がある。出席しない人がいるという問題がある。

良い手法

- 演習型（実験型）での課題を学生各自に取り組ませ、さらにその結果をコンテスト形式で競わせる
 - 学生が大きな達成感を得られる
 - 小さな成功体験を実験に組み込まれるようにする
- 教員が自身で面白いと思うテーマを選んで実施する
 - 学生のモチベーションも高くなる
 - オムニバス形式の課題の場合、担当教員間での意識の共有ができた上で実施する
- フィールドワークなど、学生にとって刺激のある課題を実施する機会を設ける

改善を要する手法

- 演習型の課題を実施する場合、時間の設定が不適切になる
 - 演習に必要な理論等を学生に理解させるための準備を、教員側が十分にできない
- 部局によって運営方法がかなり異なり、オムニバス形式での運営を要求されながらも、教員間での意識を共有できず、統一された内容にできない
 - オムニバス形式で基礎ゼミを実施するケースは多いが、その場合、多くの教員間での意識共有がなされていない
- 主体性に欠ける学生に対しての評価法が確立されていない

6. アンケート集計結果

第9回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップアンケート

今後の基礎ゼミ FD を計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力を
よろしくお願い致します。

◇ 1 から 6 の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄に
お書き下さい。

1 基礎ゼミ担当経験の有無についてお聞きます。

1. 初めて 2. 1 回経験 3. 2 回以上経験

2 今回の FD で知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべて
を選択してください。

1. 初年次学生への対応 2. シラバス作成のポイント 3. 授業テーマの設定
4. 授業の組み立て方 5. 「学びの転換」の育み方 6. 「主体性」の育み方
7. その他（具体的に） _____

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に） _____

4 「基礎ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に） _____

5 講演「配慮を要する学生への理解と対応～障害をもつ学生の支援も含めて～」では必要
な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に） _____

6 ワークショップを通し、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった 4. 参加しなかった

自由記述欄（具体的に） _____

7 次の点についてご回答ください。(1)基礎ゼミ FD への参加により学んだこと、(2)課題
として残されたこと、は何ですか。また、(3)今後、提供して欲しい情報は何か。

(1) _____

(2) _____

(3) _____

※アンケート結果 基礎ゼミ FD 参加者数 55 名。回答者数 46 名。
以下、【 】 内は回答数と回答者数に対する割合（％）。

第 9 回東北大学基礎ゼミ FD・ワークショップアンケート

今後の基礎ゼミ FD を計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力を
よろしくお願い致します。

◇ 1 から 6 の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄に
お書き下さい。

1 基礎ゼミ担当経験の有無についてお聞きします。

1. 初めて【28(61%)】 2. 1 回経験【9(20%)】 3. 2 回以上経験【9(20%)】
4. 無回答【0(0%)】

2 今回の FD で知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 初年次学生への対応【16(35%)】 2. シラバス作成のポイント【11(24%)】
3. 授業テーマの設定【18(39%)】 4. 授業の組み立て方【30(65%)】
5. 「学びの転換」の育み方【15(33%)】 6. 「主体性」の育み方【21(46%)】
7. その他（具体的に）【3(7%)】 下に記載。
8. 無回答【1(2%)】

自由記述欄

- なにもない。
- 経費について。
- 制度の内容。

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた【42(91%)】 2. どちらともいえない【3(7%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【1(2%)】

4 「基礎ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【40(87%)】 2. どちらともいえない【4(9%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【2(4%)】

自由記述欄

- 主体性の育み方についての工夫を学ぶことができた。
- それぞれのとりくみの工夫がわかってよかった。

5 講演「学生対応で留意したいこと～学生相談の現場から」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【40(87%)】 2. どちらともいえない【6(13%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【0(0%)】

自由記述欄

- 個人情報管理の重要性。
- 注意をはらう学生がいることに、再度気づかされました。
- 学生はほぼ自動的にメールアドレス等交換してしまうので抑えるのは無理な状況です。入学前にオリエンテーションして欲しい。

6 ワークショップを通し、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた【26(57%)】 2. どちらともいえない【2(4%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 参加しなかった【11(24%)】 5. 無回答【7(15%)】

自由記述欄

- 興味深い内容でしたが理系の内容が中心で、典型的な文系事例を知りたかった。

7 次の点についてご回答ください。(1)基礎ゼミ FD への参加により学んだこと、(2)課題として残されたこと、は何ですか。また、(3)今後、提供して欲しい情報は何か。

(1) 基礎ゼミ FD への参加により学んだこと、は何ですか。

- 最近の低学年学生の注意点。
- 実施例を通して、授業内容の組み立てについて、考案の指針を得た。
- 学問領域により差が大きいように思う。
- 全学教育の中で基礎ゼミが重要な位置を占めていること（花輪理事）。
- 学習の誘導。
- 主体性の育み方、基礎ゼミの雰囲気。
- 基礎ゼミの自由度を再認識し、「学びの転換」のための工夫を再考するきっかけとなった。
- 基礎ゼミの位置づけと、具体的な流れについて。
- 基礎ゼミの取りくみ方についてリマインドできた。
- 基礎ゼミについて予備知識はなかったのですが、参加してよくわかりました。
- 学生対応で留意するポイント。
- 基礎ゼミの位置付け、特色、学びの転換、主体性を育む。
- 多様な学生がいること、配慮を要する学生がいることとその対応。
- 初年次学生を相手にどのようにしたら楽しい授業となりえるのか、これを考えるきっかけを得た。
- 主体性を引き出すための工夫。
- FD がどのようなものかという概念はわかった。
- 基礎ゼミの意義。
- 学生への適度な刺激がゼミには必要。
- 目的、意義、方法 etc。
- 若手の先生方ががんばっていることがよくわかる。
- 授業の進め方。
- 宿題（受け身）は出さない。
- 基礎ゼミの目的。
- 3つの講演は全て素晴らしいものでした。発表の方法のお手本でした。
- 改めて、初年次学生に対する対応を考えなおした。

(2) 課題として残されたこと、は何ですか。

- 自分が取り上げようとする内容を、いかに学生参加型に展開するか。
- オリエンテーションに改善の余地がある・・・具体的にどうすればいいかはすぐには分かりませんが。
- オムニバス形式をとっているため、全体の統一性が今後の課題である。
- 集中講義を行う予定ですが、そういう形での実践報告がなかったので、運営が少し不安です。
- 学生が主体的に取り組みたくなるようなテーマ選び。
- 学生に問題が生じたときに、うまく気付いて対応できるか。
- 評価方法。
- やはり具体性がとぼしい。もっと様々な例を紹介して欲しい。
- 小さい教室では負担が大きい。
- 学生の主体性をいかにして出すか。
- 具体化。
- 英語で担当していくとき、オムニバスで担当するときの工夫。
- 学生の評価法。
- 初年次学生の知識レベルの把握と、主体性をいかにもたせるか？
- 国際性を養う観点をどうとり入れるか？
- 具体的な「主体性」の育み方に対する所見が得られなかった。

(3) 今後、提供して欲しい情報は何ですか。

- 14時～15時の発表をしないで、13時-14時の発表を13-15時にする。
- 成功した基礎ゼミの例を多く、簡単に知りたい。
- 実践事例は大変興味深く参考になる。
- (2) で書いた通り、集中講義型の場合の展開例がほしかったです。
- 教員の知識はどの程度まで与えるべきか？
- 基礎ゼミは教員（特に任期付きの助教や准教授）の業績、評価にどのような利点があるのか。具体的に示してほしい。義務と言われればもちろん協力するが、利点があるのとないのでは、基礎ゼミにかかる時間、労力が変わってくるのは必然。
- 学生側の希望。
- TA や SLA の具体的な導入例。
- メンタルヘルスに問題のある学生がいた時の事例と対策例。
- 基礎ゼミ担当者が誇らしくなる情報。
- 主体性を育む成功例、失敗例など。

編集担当：東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 葛生政則

IEHE Report 63*

第9回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ ー報告書ー

2016 年（平成 28 年）3 月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

*No.55 以前は CAHE TOHOKU Report として刊行